

駒澤大学1×2中央大学

後半、CKを巻が合わせるが惜しくも枠外へ。この日の巻は終始密着マークに苦しんだ (撮影・斉藤卓也)



サイドを崩され2失点・・・優勝へ向け痛恨の黒星

優勝へ向け再出発

試合は秋田監督が「追いかける展開になる」と思っていた。(中大は前期6-1だったが) そういうチームのほう怖い。同じチームでも相手を軽く見てしまうことがあるから、僅差の勝負になるとは何回も言っていた」と語った通りの展開となった。

前半は開始からお互いが攻め合う。5分、塚本の右FKを菊地が頭で合わせ、ゴールネットをゆらす。相手へのファウルをとられゴールならず。8分、今度は相手が左クロスを押し込み、ゴールネットをゆらしたが、こちらもファウルをとられゴールとはならなかった。その後は中大に攻め込まれる時間が多くなる。しかし駒大は体を張った守備で得点を許さない。すると前半終了間際の44分、原と巻の息の合ったコンビプレーから、最後は原がヘディングシュート。惜しくもゴールには至らなかったが、素晴らしいプレーだった。

後半は開始早々から試合が動く。前掛かりになっていた駒大DFの裏をとり、中大が右からクロスあげる。そのクロスをヘディングで合わせられ、51分に先制点を献上する。続く54分、56分と立て続けにミドルシュートを撃たれるが、GK三栗の好セーブでピンチをくり抜ける。今度は駒大が反撃に出る。61分、塚本の右FKをゴール前でフリーになっていた廣井が頭で合わせ同点に追いつく。しかし67分に今度は、中大の速いリスタートのFKで右サイドを崩され、最後はクロスからゴールを決められる。再びリードを許した駒大はDFの廣井までゴール前へ上げて攻め立てたがゴールは奪えず、手痛い敗北を喫し、首位の座を流経大に奪われてしまった。

試合後廣井から「試合に負けて素直に自分たちが弱いんだなと思った」という弱気な発言も出たが、「(次節は)筑波のいいところを封じて駒大サッカーをやるだけ」と早くも気持ち切り替わっている様子。確かにこの敗北は優勝に向け手痛いものとなったが、選手達が監督から言われたという「チームでやるということ、何のため、誰のためにやっているのか」を見つめ直す良い機会になっただろう。駒大イレブンはこの監督の言葉を胸に良く刻み、優勝にむけ新たなスタートを切る。

(中野成博)